

奈良市教育ビジョン懇話会(平成25年度第1回) 会議録

1 日時 平成25年8月16日(金) 午前10時～午前12時

2 場所 奈良市役所 北棟6階 第22会議室

3 出席者

【委員】重松敬一委員、小柳和喜雄委員、菅正隆委員、本山方子委員、大西昇委員、畑中康宣委員、上山勝己委員、竹原康彦委員、荒木美久子委員、木寅葉津子委員、

【市職員】教育長、教育総務部長、学校教育部長、子ども未来部長、教育総務部次長、子ども未来部理事、教育総務部参事、教育総務部参事(中央図書館長事務取扱)、教職員課長、生涯学習課長、学校教育課長、保健給食課長、地域教育課長、教育支援課長、教育政策課長、子ども政策課長、こども園推進課長

【事務局】教育政策課職員

4 会議事項

- (1) 委員委嘱・任命
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) 座長選出
- (5) 平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について
- (6) 奈良市教育ビジョン後期計画素案について
- (7) 今後のスケジュール
- (8) その他

※全て公開で審議。(傍聴人0人)

5 配布資料

- 奈良市教育ビジョン懇話会 委員名簿
- 奈良市教育ビジョン懇話会設置要綱
- 平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価(案)
- 参考資料:奈良市教育ビジョンの施策評価(年度毎の評価)
- 奈良市教育ビジョン後期計画素案
- 奈良市教育ビジョン後期計画素案(概要版)

- 奈良市教育ビジョン後期計画策定経過

6 議事の要旨

(1) 委員委嘱・任命

- 教育長が、奈良市教育ビジョン懇話会委員の委嘱状又は任命書を交付した（奈良市立学校の教職員である委員は任命書、他の委員は委嘱状）。委嘱日は平成25年7月19日。

(2) 教育長あいさつ

大変お忙しい中、教育ビジョン懇話会にお集まりいただきありがとうございます。委嘱・任命をさせて頂いたが、これから1年間お願いしたい。教育ビジョンを平成21年5月に策定したが、時代の変化も激しくなってきた。10年という長いスパンでありながらも、時代の変化に応じたものも取り入れて行く姿勢が重要になる。

学校教育部長時代に「奈良市教育改革3つのアクション」提言に携わり、教育長を拝命した頃に教育ビジョンが策定された。私はこのビジョンと共に歩み、またこれからも歩んで行く強い決意をもっている。これまでの流れを汲みながら、また、自分の中の区切りを付けつつビジョンを自分の中に取り込んで推し進めたい。

後期計画の進め方について委員の皆様のお知恵やお気持ちを込めていただき、ご審議の程よろしくお願いしたい。

(3) 自己紹介

重松委員：3つのアクションの頃から奈良市の教育の在り方について議論させて頂いている。このビジョンでは長く関わるだけでなく、何かの役に立ちたい。

小柳委員：教育ビジョンは全体像を描く大切なものである。後期計画5年では引き継ぐところと見直すところの検討に関わっていければと思う。

菅委員：初めて参加させて頂く。奈良市を日本一の教育都市にしていきたい。

本山委員：教育ビジョン策定当時は10年間分しっかりできたと思っていたが、今回の見直しも時代の変化に対応していきたい。

大西委員：学校サイドと話し合いを持ちながら、前向きに進めていきたい。

畑中委員：保護者の立場、視点からしっかりと取組みたい。

上山委員：高校校長としての立場から意見を述べていきたい。

竹原委員：現場の声を反映し、学んだことを現場にも返していきたい。
荒木委員：奈良市を誇る気持ちで後期計画策定に関わっていきたい。
木寅委員：幼児教育において奈良らしい教育ビジョンに関わっていきたい。

(4) 座長選出

- 奈良市教育ビジョン懇話会設置要綱第5条第1項に基づき、座長を委員の互選により選出。座長職務代理は、委員の中から座長が指名。

座長：重松敬一委員

座長職務代理：上山勝己委員

- 座長あいさつ

皆様に推挙頂き、職責の重さを感じている。この懇話会が奈良市の教育に対して良い意味で機能しているのか考えたい。人生を過ごすことに恵まれた市であると思える根幹を担う教育の指針を考えてきたと自負しているが、それが全て実践できているとは言い難い。皆様の協力のもと、後期計画策定や施策評価等を行っていきたい。

- 職務代理あいさつ

一生懸命務めさせて頂く。宜しくお願いしたい。

(5) 平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について

- 事務局が、平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について説明。
(パワーポイント資料)

➤ 平成24年度評価の内訳を一覧にした。4段階評価において、ほとんどの施策がプラス評価（4「できた」、3「ほぼできた」）だが、評価が2となっている施策が2つあった。

1つは92の「安全・安心な施設環境の整備」である。その理由は、学校施設の耐震化の早期完了を優先させたため、施設環境の整備が先送りになったためである。

もう1つは108「サポートセンターの設置および支援による地域ネットワークの充実」及び109「情報通信を活用したボランティアネットワークによるコーディネーター支援」である。これについては、サポートセンターの設置が出来ていないこと、地域ネットワーク充実等の観点から2という評価となった。

➤ 基本目標1「奈良らしい教育の推進」は、世界遺産学習及び幼小連携・小中一貫教育の実績と、各施策が全てプラス評価であったこと

をふまえ、平成24年度の目標は達成できたと考える。

● 基本目標1について委員が意見交換。

重松座長：質問も含め、評価の妥当性についてどうか。専門的立場も含め意見を頂きたい。

荒木委員：平成24年度の取組に対する評価の経過を知りたいので、後期計画策定経過の資料に記載されている様々な組織の位置付けや関係性をお教え頂きたい。

→ 【教育政策課長】 ビジョン懇話会はこの会議であり、準備委員会は懇話会の下に位置する部会、定例教育委員会は教育委員の会議、研究協議会は教育委員が勉強や協議を行う場である。現在の資料は時系列順で混在しているのでそれぞれの位置付けを示した資料を用意したい。

現在討論頂いている施策評価は平成24年度の取組に対する評価であり、後期計画とは切り離して考えて頂きたい。

重松座長：施策評価は大きく3つあり、奈良市の政策全体の評価、教育委員会の施策の評価、教育ビジョンの独自評価を実施している。現在は奈良市全体の評価と教育委員会の評価の様式を統合し、スリム化している。

木寅委員：世界遺産学習では世界遺産に触れるという原体験を元に幼児たちの育成を行っている。継続することの難しさはあるが、続けていく事の大切さを保護者、地域に発信することで幼稚園教育の理解を得ていく方法を進めている。4という評価だが、さらに向上が期待できると思う。

幼小連携の職員研修での感想だが、子ども理解にかなりの違いがあると思う。幼・保・小学校で独特の教育観があり、子どもの姿に合わせた共通理解が必要だと感じた。そういったことをふまえての3という評価だと受け止めた。

菅委員：目標に推進や充実といった、人によって捉え方が変わる言葉が使われている。数値目標など用いて、目標を鮮明にすべき。取組実績について受け手によって評価が変わる。数値目標などを入れないと主観的な評価になってしまう。

重松座長：教育委員会の施策評価も合わせてみればもう少し客観的に判断できるようになると思う。

小柳委員：4という最高評価で止まった場合、それ以上を実現できた場合どうするのか。目標を超えて実施できたことについても示せればなお良い。評価に縛られず、もっと前向きに評価できる方法があれば

ば良い。

重松座長：この意見については後期計画の評価の参考にしたい。

ユネスコスクールの評価が4から3になっているが、こういった理由があるのか説明願いたい。

→ 【学校教育課長】 ユネスコスクールの加盟の促進事業について、3校が認定され合計27校園となったが、目標である40校園に到達しなかった為評価は3になっている。

重松座長：こういった数値的背景があっても、記載されていないために評価に理解が難しいことがある。

- 事務局が、平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について説明。(パワーポイント資料)

➤ 基本目標2「豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進」について、放課後子ども教室やはつらつコーチングプラン事業等の実績と、各施策が全てプラス評価であったことをふまえ、平成24年度の目標は達成できたと考える。

- 基本目標2について委員が意見交換。

重松座長：評価が変わったのは道德教育、読書活動、家庭教育、はつらつコーチング等である。このあたりで意見はないか。

荒木委員：読書活動に関連して、学校図書補助は地方交付税措置であるので働きかけないと受けられない。平成25年度の目標から来年度の評価を考えると、学校図書補助に対して来年度へ向けて動けば4を超える評価というのもありえる。24年度の評価については問題ない。

畑中委員：情報モラルについての推進について、スマホ・ネット等の危険性を保護者は心配している。各校で研修等も行っているが、教育委員会が主催している講習会、講演会を知らない保護者もいるのではないか。実施内容について説明頂きたい。

→ 【学校教育課長】 各学校やPTA等の要請に応じて講演会を実施している。24年度は11回の実施であった。年度当初の数値目標は特に入っていないが、回数は毎年増えている。

小柳委員：取組を達成したかしないかだけでなく、効果のデータがあって初めて意味があると思うのだが、書いてあるところが稀にしかない。効果の裏付けをもっと表面に挙げれば取組の良さがより伝わる評価になると思う。

菅委員：司書教諭の配置事業について、小学校の数で言えば達成できて

いないが、達成している中学校と合わせるため平均して概ね達成できたという評価に捉えてしまう。10年スパンで事業を継続するのではなく、できたものから完了事業としてもよいのではないか。

重松座長：小学校は8校がまだ配置できていない点が問題として残っている。

- 事務局が、平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について説明。(パワーポイント資料)

- 基本目標3「確かな学力をはぐくむ教育の推進」について、カリキュラムセンター利用推進や、幼稚園と保育園の一体化を進める体制等の実績及び、各施策が全てプラス評価であったことをふまえ、平成24年度の目標は達成できたと考える。

- 基本目標4「信頼される学校づくりの推進」について、教職員への豊富な研修講座や、校舎の耐震化工事の実績及び、各施策がほぼプラス評価であったことをふまえ、平成24年度の目標は達成できたと考える。

- 基本目標5「地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進」について、子どもの見守り活動や、多くのコーディネーターの活躍等の実績及び、各施策がほぼプラス評価であったことをふまえ、平成24年度の目標は達成できたと考える。

- 基本目標3, 4, 5について委員が意見交換。

本山委員：全体的な問題として、この施策評価の位置付けをどうするのか。今までは細かく記載しているが、今後の評価は市民に向けても見やすい評価にすべき。文字ばかりが見にくいわけではないが、取組内容などはほとんど具体例が入っていない。書きにくいところもあると思うが、領域ごとに1事例ほど盛り込めば取組状況が見やすくなると思う。

→ 【教育政策課長】 教育委員会の施策評価には、法に定められた教育委員会の評価と、奈良市全体の政策の一環である教育分野として実施する評価、教育ビジョン独自の評価、3つがある。一昨年度まではそれぞれ別に行っていたが、関連付けて整理する方向で進めている。後期ではどのような効果があったのかが見える評価を模索している。市民向けに具体的な取組事例は必要だと思う。施策ごとにHP等で積極的に広報を行うなど、後期の評価の方法について検討していきたい。

重松座長：92「安全・安心な施設環境の整備」の評価が4から2になって

いる理由を教えてください。

→ 【教育政策課長】 市としては施設の耐震化を最優先としているため、当初の目標に比べて進捗が劣っている。

重松座長：評価を読んでも2になるほどではないと感じる。再度検討頂きたい。

小柳委員：目標は毎年設定していると思うが、前年の積み残しがどうなったのか判断しづらい評価方法になっている。後期では評価方法や毎年目標を設定し直すのか等を検討すべきである。

重松座長：5年間全体だけでなく、毎年をきっちり説明できるように、これらの評価結果を後期策定にも活かしたい。

(6) 奈良市教育ビジョン後期計画素案について

● 事務局が、平成24年度 奈良市教育ビジョンの施策評価について説明。
(パワーポイント資料)

➤ 策定の経緯

原点は平成14年度の3つのアクションであり、現在は基本目標2、3、4になっている。そこに「奈良らしい教育」を基本目標1に、「横の連携・縦の接続」を基本目標5として現在の教育ビジョンが成り立っている。後期計画素案にはビジョンをどう実現していくのか、学校現場にどう落とし込んで行くのかまで踏み込んで作成している。

➤ 現状分析

前期計画の総括、教育ビジョンに係るアンケート調査、全国学力学習調査、懇話会にて頂いた意見の4点を分析・検討し策定準備を行った。

➤ 基本方針

5つのめざす子ども像の実現をめざし、「夢と誇りをもち、社会を生き抜く力の育成」を目標とした。目標設定のポイントは、グローバル社会をたくましく生き抜くために奈良らしさを打ち出している「誇」と、現代の若者の課題であるキャリア教育である「夢」を盛り込んだ点である。

また、めざす子ども像の位置付けを図示した。アイデンティティを培う「誇」を土台に、教育のベースとなる「知」「徳」「体」を元にして「夢」に向かっていくという図が、奈良市の教育方針とめざす子ども像の関係性を最も適切に示した素案としている。奈良を誇りに思う、奈良を離れても思うことができるようにといった願いも込めている。

➤ 奈良らしさと重点施策

前期計画にて重点施策としているアクション1を4施策から5施策に増やした。ハローイングリッシュ事業は、対象を小学校から中学校へ広げることから、英語教育へと名称を改めた。30人学級をアクション1から3へ、情報教育をアクション3から1へ変更した。キャリア教育をアクション1に新設した。世界遺産学習、英語教育、ICT教育の3つを重点施策として位置付けた。

➤ 後期計画の実現にむけて

後期計画を実現するためには4つのポイントがある。

- ・奈良の3つの強みを教育に生かす。世界遺産等の地域遺産、奈良教育大学をはじめとした連携、地域教育協議会などの地域連携が強みである。
- ・縦と横のつながりである幼小連携や地域連携の中で進めていく。
- ・子どもの姿から評価を行う。子ども像に合わせて教員が4段階評価を行う。評価結果が教育に生きる形でありながら、教員に負担のかけない手軽な評価方法を取る予定である。
- ・教育センターを核とした教師力の向上を目指す。

➤ 各論について

前期の27施策112事業を精選・統合し、45事業にした。

めざす子ども像での評価を行うことを意識し、各施策にめざす子ども像を設定した。実際の教育現場にビジョンを落とし込む意図も含めている。

各事業について、年次計画として子どもの姿に合わせた到達目標を考えていたが、等質なものが設定できないことからあえて掲載しないこととした。

● 委員が意見交換。

重松座長：施策の方向性、妥当性等についていかがか。

- 【教育政策課長】 限られた時間でもあり、言い尽くせないものは、後日ご意見を寄せていただきたい。頂いた意見を検討しつつ原案を検討し、パブリックコメントとして市民からもご意見を頂く。これらをまとめ、再度懇話会にて議論頂く予定である。

竹原委員：まず、非常に責任を感じている。ある会議でビジョンの認知度を確認してみたが、誰も知らなかった。校長として、ビジョンを実際の教育に結びつけて示すことができていなかった。何をどのように伝えるべきか考えないと、ビジョンと現場の取組との一体化はない。評価システムを含めて、幼児から高校生まで統一して姿を捉えるのは難しいと思う。

地域で決める予算事業の中学校の負担が大きい。どうするか考えないと今のまま進んでしまい、コーディネーターの裾野も広がらない。人員が固定されてしまっている。中心となれる教員の配置を希望する。

上山委員：高校教員の立場で言えば、小中一貫教育の情報収集もしているが、着実に進んでいると感じる。教育相談は手厚いバックアップをしていただいたのでもう少し高い評価でもよい。

菅委員：管理職の意識の違いが問題である。意識格差があれば全体で何をやるにしても難しい。アクションを起こすなら全員が一貫しなければ子どもにリスクがふりかかる。管理職の意識の向上を図るべきだと思う。

重松座長：評価方法が変わることにおいても、教員がビジョンを理解した上での評価ができるよう管理職には共通認識をもってもらいたい。

本山委員：ビジョンは見やすくなっており、重点施策の入れ替えについても問題ないと思う。キャリア教育は前期計画にベースがないが、具体的にどのようなことを実施するのか。各施策を子ども像に結びつけるのは新しく、教員に認識してもらうには重要だと思う。施策の評価は継続されるのか、先生方の評価のみになるのかを教えてください。評価は、年次目標などを立てそれに沿って行うのか、それとも5年間の目標を元に毎年評価するのか。

→ 【教育政策課長】 教育活動すべてにおいてキャリア発達を促す為、何か1つをすればキャリア教育になるというわけではない。キャリア教育の視点から各施策を見直す意味合いも含め、今後具体的な内容を検討していく。

教員に評価してもらうことでビジョンを知ってもらうことが全てのスタートとなる。頂いた意見を元にしてどうすれば最も見やすいのかこれから検討していく上で、評価倒れにならない形を念頭に置いて進めていく。各論の年次目標はそれぞれもっているが、今紙面には出ていない。

重松座長：何より本人の自発的学びが大切であり、そういった子どもたちの学びを位置付けるのがキャリア教育である。自分がどうあるべきかを自覚できる子どもたちの学びをサポートできるキャリア教育を考えているのではないかと思う。

小柳委員：ポスター的なものが必要かもしれない。学校などに掲示して、教員や保護者の意識を喚起するような周知徹底の方策が必要。ICTは小中で一貫して実施しないとやりにくい。小学校は豊かな学びとして使われているが、中学校では確かな学び（出口を意識した学び）に目を向ける傾向がある。個々の小学校で実施しても、中学校で途切れては意味がない。

畑中委員：学校だけでなく家庭教育でも関わらなければならないものもたくさんあり、保護者がいかに関われるかが大切であると思う。

大西委員：防災教育を実施しているが、生徒主体で進めている。東北に赴いた生徒もあり、研究発表にどれくらい参加頂けるかを期待している。

重松座長：学校と地域との連携をよろしくお願ひしたい。このあと1週間程度何かご意見あれば事務局へ連絡いただきたい。

後期計画を子ども像に集約したいということは、現場の教員方に実施してもらわないと実現が叶わない。それをサポートし、実現可能なものとして意識してもらえるものを作っていきたい。皆様には普段の目の前の現実を意見集約し、ビジョンに反映させて頂きたい。

(7) 今後のスケジュール

- 事務局が、今後のスケジュールを説明。
 - 平成24年度の施策評価は9月定例教育委員会にて報告する。
 - 次回の懇話会には、後期計画素案についてのパブリックコメントの結果と回答を報告したい。
 - 第3回懇話会にて後期計画最終案についてご意見を頂いた後、定例教育委員会にて教育ビジョン後期計画（案）の審議・決定、観光文教水道委員会に教育ビジョン後期計画の報告を行う予定となっている。